

道路事業の事後評価説明資料

〔国道8号 魚津滑川バイパス〕

令和2年12月

北陸地方整備局

目次

1. 事業概要	
(1) 事業の目的	P 1
(2) 整備内容	P 2
2. 事業の効果の発現状況	
(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因に関する事項	P 3
① 交通量の変化	P 3
② 走行時間の短縮	P 4
③ 交通事故件数の減少	P 5
(2) その他の効果	P 6
① 物流効率化による企業の生産性向上	P 6
② 第三次救急医療施設へのアクセス向上	P 7
3. 事後評価結果	P 8
4. 対応方針（案）	P 10
別冊 費用対便益算出資料〔様式集〕	

1. 事業概要

(1) 事業の目的

当事業は、

○交通渋滞の解消

○幹線道路ネットワーク機能の強化 など

を目的とし、国道8号の富山県魚津市住吉^{うおつ すみよし}～富山県滑川市稲泉間^{なめりかわ いなはずみ} (延長7.4km) についてバイパス整備を行ったものである。



撮影日: H15.11.27

写真1-1 滑川市中村より石川県方面を望む

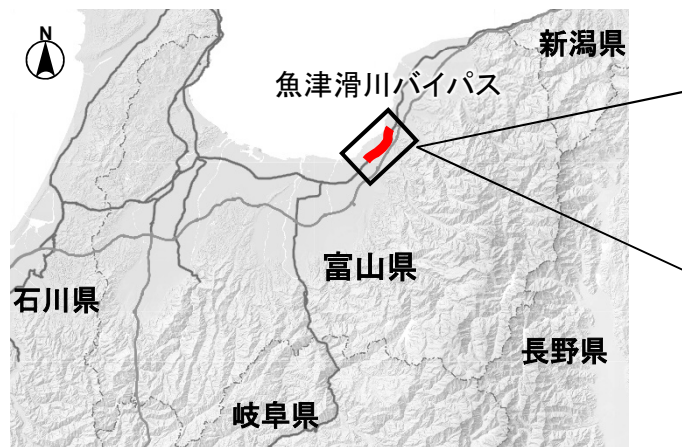


図1-1 広域図



図1-2 位置図

1. 事業概要

(2) 整備内容

- 事業名：国道8号 魚津滑川バイパス
- 起終点：(起) 富山県魚津市住吉
(終) 富山県滑川市稲泉
- 延長：7.4km
- 全体事業費：約311億円
- 完成車線数：4車線
- 道路の区分：第3種第1級
- 都市計画決定：平成元年度
- 事業化：平成元年度
- 用地着手：平成4年度
- 工事着手：平成5年度
- 事業完了：平成27年度

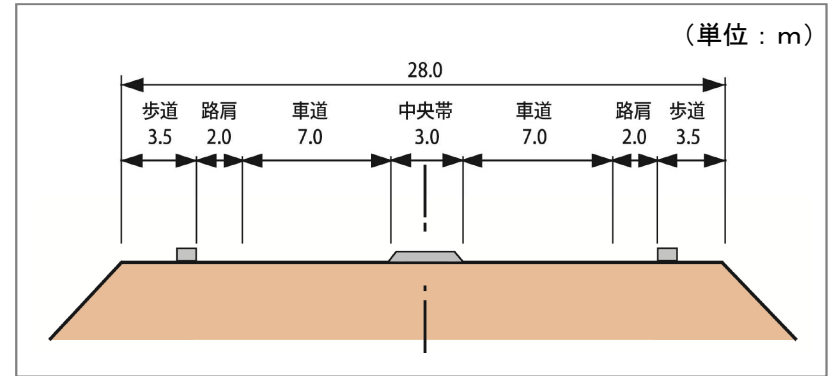


図1-4 標準横断面図



図1-3 魚津滑川バイパス位置図



写真1-2 魚津市吉野より石川県方面を望む
撮影日：H28.8.6

2. 事業の効果の発現状況

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因に関する事項

① 交通量の変化

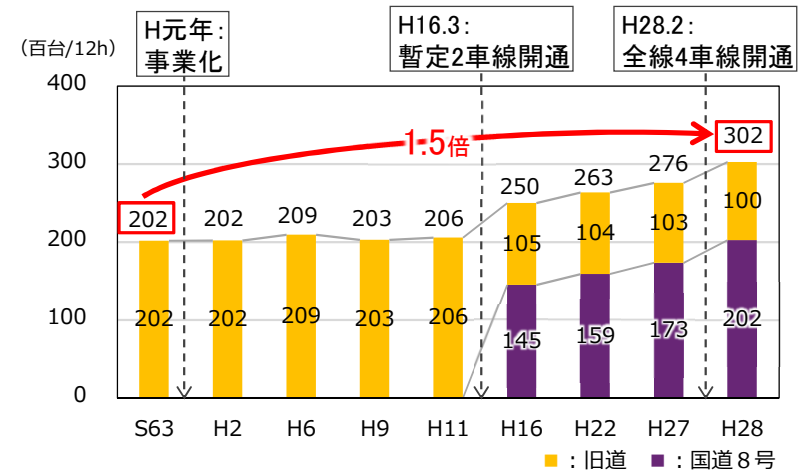
○ 魚津滑川バイパスを含む早月川断面の総交通量は、開通前（S63年）に比べ1.5倍に増加。



図2-1 魚津滑川バイパス位置図



写真2-1 全線4車線開通後の交通状況
(滑川市大掛より新潟県方面を望む)



出典：S63～H11, H22～H27 全国道路・街路交通情勢調査
H16 交通量調査結果 (H16.5.20(木))
H28 交通量調査結果 (H28.9.27(火))

図2-2 魚津滑川バイパス事業区間、旧道交通量の推移

2. 事業の効果の発現状況

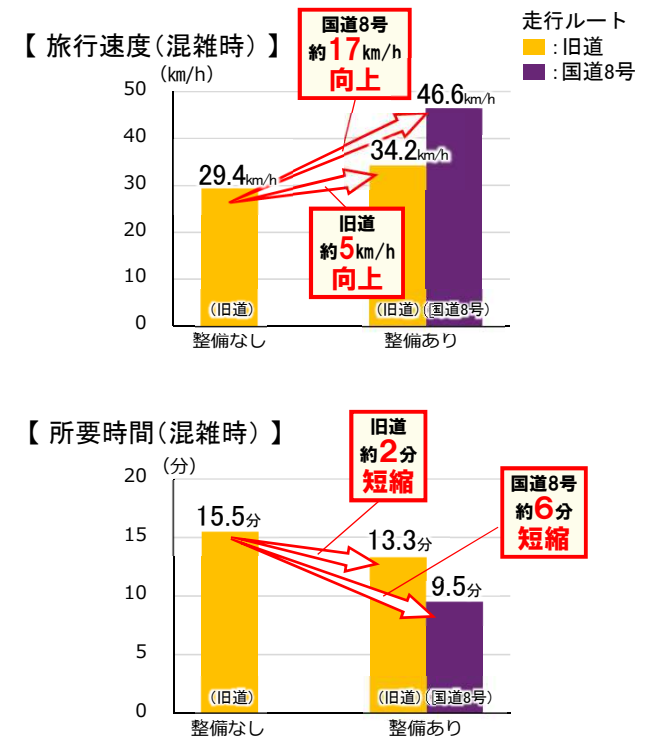
(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因に関する事項

② 走行時間の短縮

- 魚津滑川バイパスの整備により、旅行速度が向上し、バイパス間の走行時間が約6分短縮。
- 交通の転換により旧国道8号の旅行速度も向上し、旧道部の走行時間が約2分短縮。



図2-3 魚津滑川バイパス位置図



出典：整備なし (H11 全国道路・街路交通情勢調査(混雑時旅行速度))
 整備あり (ETC2.0プローブ情報(R1.9-R1.11 平日7~9時、17~19時平均))

図2-4 旅行速度・所要時間の変化

2. 事業の効果の発現状況

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因に関する事項

③ 交通事故件数の減少

- 魚津滑川バイパスの整備により、死傷事故件数が約5割減少。
- 渋滞に起因すると想定される追突事故についても約4割減少。



図2-5 魚津滑川バイパス位置図

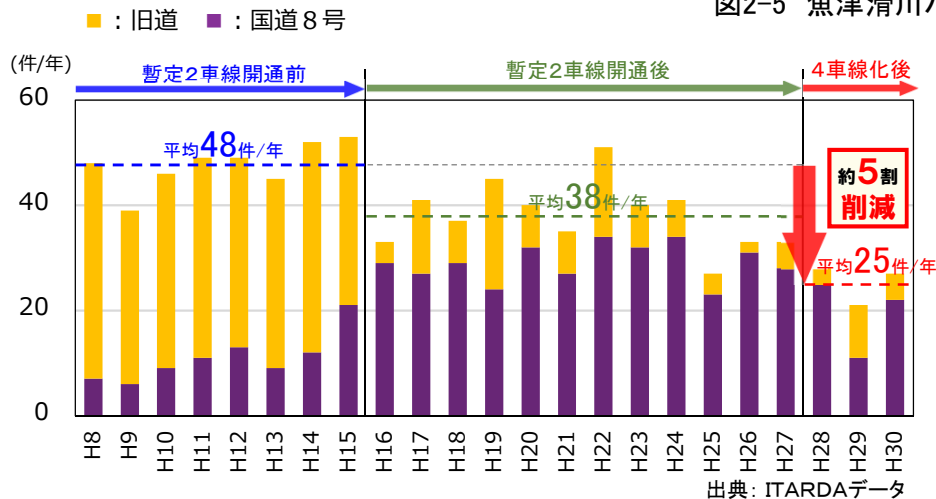


図2-6 死傷事故件数の変化(事業区間全体)

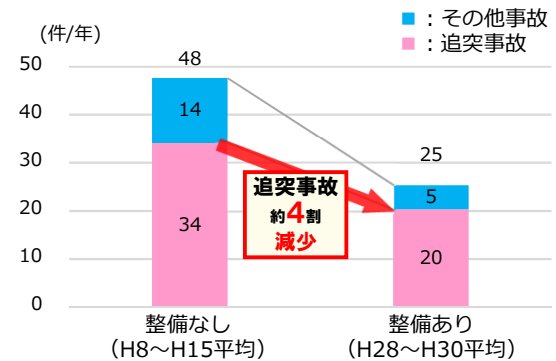


図2-7 追突事故件数の変化(事業区間全体)

出典: ITARDAデータ

2. 事業の効果の発現状況

(2) その他の効果

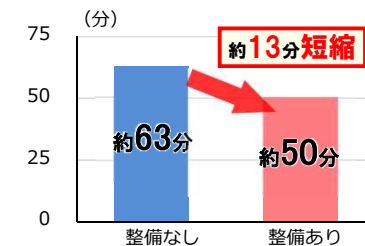
① 物流効率化による企業の生産性向上

- 魚津滑川バイパスを含む国道8号沿線には工業団地が多く、世界シェアNo. 1企業も立地しており、国道8号は県東部地域の企業と伏木富山港を結ぶ重要なアクセスルートとして利用されている。
- 魚津滑川バイパスの開通により、魚津市から富山市まで全線4車線のバイパスが完成、アクセス性が向上したことで、沿線には多くの企業が進出し、地域の生産性向上を支援。



図2-8 国道8号を利用した物流経路 -6-

【入善町上野～富山市金泉寺間】



出典：整備なし(H11 全国道路・街路交通情勢調査(混雑時旅行速度))
整備あり(ETC2.0プローブ情報(R1.9-R1.11 平日7～9時、17～19時の平均旅行時間より算定))

図2-9 県東部のバイパス整備による所要時間変化

・原材料を海外から輸入し、伏木富山港から黒部の工場まで、**国道8号**を利用して搬入しています。

・バイパス整備により**定時性が確保**され、黒部工場から滑川工場までの**搬入が3往復から4往復に増加**しました。

出典：企業ヒアリング(H29. 7)



製造業

2. 事業の効果の発現状況

(2) その他の効果

② 第三次救急医療施設へのアクセス向上

- 国道8号沿線市町村では平成25年に広域消防組合が結成、関係市町村への応援出動時には魚津滑川バイパスがアクセスルートとして機能。
- 魚津滑川バイパスを含む国道8号の整備により、富山県東部地域から第三次救急医療施設である富山県立中央病院への搬送時間が短縮され、救急救命活動を支援。

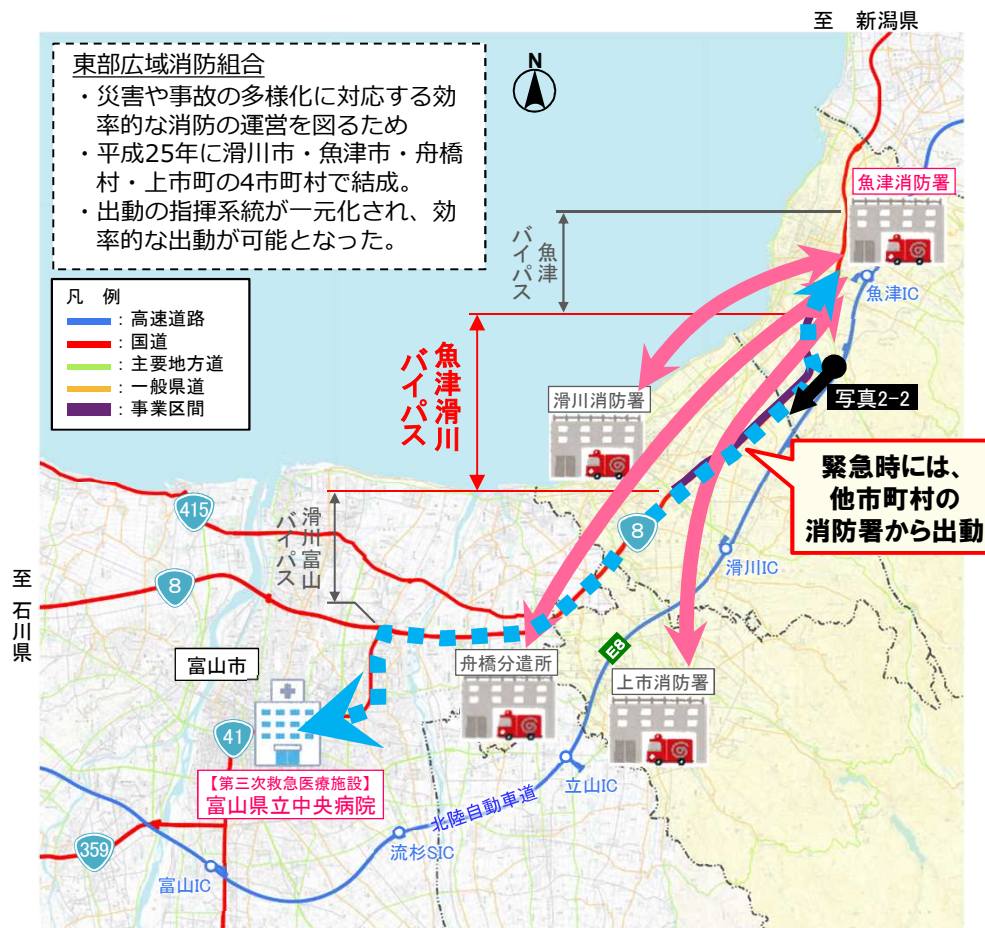


図2-10 富山県立中央病院へのアクセスルート、応援出動状況 ー7ー

【富山県東部消防組合の救急隊員の声】



- ・他市町村への出動・帰署時に、**国道8号バイパスを多く利用しています。**
- ・バイパスの全線4車線化により、救急車も周囲の車も走行しやすくなりました。**渋滞が少なくなり、搬送時間の短縮にも繋がっています。**

出典：ヒアリング調査（R2.9）

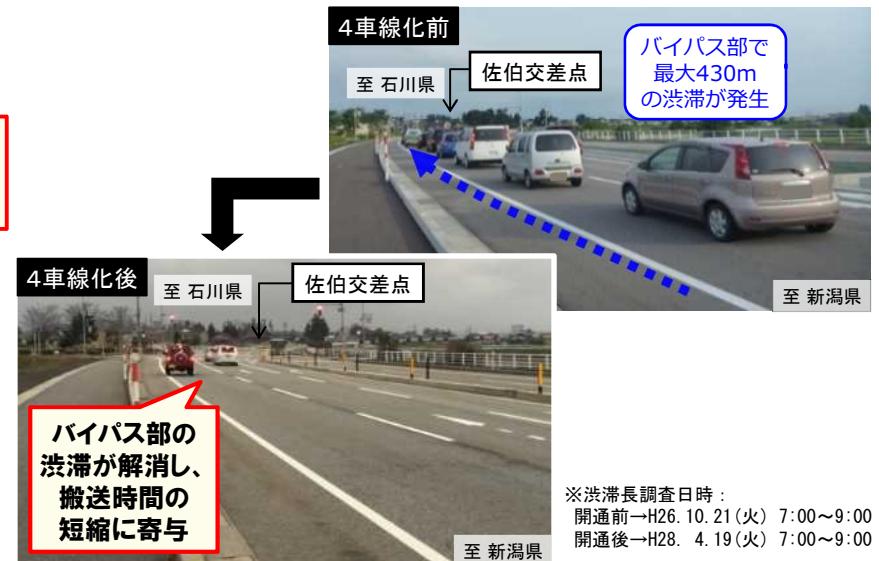


写真2-2 魚津滑川バイパスの現在の交通状況
 (魚津市佐伯より石川県方面を望む)

3. 事後評価結果

費用対効果分析の算定基礎となった要因

事業名	国道8号 魚津滑川バイパス				
起終点	(起点) 富山県魚津市住吉 <small>うおづ すみよし</small> ~ (終点) 滑川市稲泉 <small>なめりかわ いなはずみ</small>				
事業概要	国道8号魚津滑川バイパスは、富山県魚津市住吉 <small>うおづ すみよし</small> ~ 滑川市稲泉 <small>なめりかわ いなはずみ</small> 間 (延長7.4km) についてバイパス整備を行ったものである。				
事業の目的・必要性	国道8号魚津滑川バイパスは、交通渋滞の解消、幹線道路ネットワーク機能の強化などを目的とした事業である。				
事業期間	平成元年度 ~平成23年度 (平成15年度再評価)	→	平成元年度 ~平成28年度 (令和2年度事後評価)		
事業費	約360億円 (平成15年度再評価)	→	約311億円 (令和2年度事後評価)		
交通量	33,000台/日 (H42) (平成15年度再評価)	→	31,600~34,100台/日 (R12) (令和2年度事後評価)		
旅行速度向上	29.4km/h (H11) (整備なし: 旧国道8号)	→	46.6km/h (R1) (整備あり: 国道8号)		
交通事故減少	48件/年 (H8-H15平均) (整備なし: 旧国道8号+国道8号)	→	25件/年 (H28-H30平均) (整備あり: 旧国道8号+国道8号)		
費用対効果 分析結果	B: 総便益	C: 総費用	B/C	基準年度	
	再評価	総便益: 1,260億円	総費用: 411億円	3.1	平成15年度
	事後	総便益: 1,605億円	総費用: 696億円	2.3	令和2年度

3. 事後評価結果

事業の効果の発現状況

- ・ 本事業の整備により、走行時間の短縮、交通事故件数の減少、物流効率化による企業の生産性向上、第三次救急医療施設へのアクセス向上等の効果が得られている。

事業実施による環境の変化

- ・ 事業実施中及び事業完了後において、環境の変化に関する問題は認められない。

社会経済情勢の変化

- ・ 事業効果の発現を妨げるような大きい社会情勢の変化はない。

今後の事後評価の必要性

- ・ 事業が完了し、日常的な道路利用がなされている。
- ・ 費用便益比（B/C）は、2.3で投資効果も確認されており、今後の事業評価の必要性はないと考えられる。

改善措置の必要性

- ・ 本事業を介した交通ネットワークが形成されており、今後も事業効果が発現されるため、改善措置の必要性はないと考えられる。

同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- ・ 計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はないと考えるが、今後もビッグデータ等を用いた詳細なデータを活用し、生産性の向上や安全・安心を含めた生活の質の向上など、ストック効果に留意した評価に努める。

4. 対応方針（案）

対応なし

（理由）

- ・ 投資効果が確認されており、今後の事業評価および改善措置の必要性がないと判断される。